

日病薬の最近の動き(30)

広報部の歩みと今後の活動方針

広報部
部長 明石 貴雄

広報部の歩み

広報部は平成11年度からその活動を開始し、日本病院薬剤師会（以下、日病薬）の組織としては最も新しい部門の1つです。その発足の源は病院薬剤師および日病薬にとって大きな転機となった、平成10年の人員配置基準の見直しでありました。医療法上の薬剤師の員数規定が、これまでの調剤数に基づく基準から、入院は外来と切り離し患者数単位となり、外来は処方せん枚数単位へと変更されたものです。

これまで日本病院薬剤師会が主張し続けてきた病院薬剤師の業務は、調剤を中心とするものから、個々の医療における医薬品の選択、薬物相互作用、副作用の防止などに対する貢献であり、入院患者の医薬品の適正使用に中心的な役割を担うものであります。

しかしながら、見直された配置基準の内容は、一般病床で入院患者70人に1人という必ずしも満足のいくものではありませんでした。

結果として社会一般に対する病院薬剤師の存在の理解度・認知度を高めていく必要性が痛切に感じられた次第です。

このような結果を受け、日病薬では新たに広報部を発足させ、会員向け情報の発信だけでなく社団法人としての責務として、社会に向けた広報・啓発活動も積極的に行っていくことにいたしました。

新生広報部は病院薬剤師の存在を広く一般大衆に知っていただく方策を考え、その第一弾として平成11年に、その存在をアピールするポスターを作成しました。

「世間に顔の見える薬剤師」を実現するための道具の1つとしてのポスターはその後平成15年にも2種類追加作成されています。

また、平成12年には薬剤管理指導業務を行う際に薬剤師であることが一目でわかるよう「私は病院薬剤師です」と病棟での薬剤師の存在をアピールするワッペンを作成も行いました。これらはいずれも広報部員がメーリングリスト上で数百回の発言による活発な議論を基に作り上げたものです。これらのポスターは現在もホームページに掲載されていますのでご存知とは思いますが、ダウンロードして使用していただければ幸いに存じます。

今後の活動方針

平成17年度の広報部活動方針は、以下の3点を重点検討事項として実施していく予定です。

1. 広報月間（10月）の推進（全国お薬相談会の実施支援）

国民への病院薬剤師の存在アピールとして、広報月間（10月）に全国お薬相談会や市民講座などの実施支援を行う。薬に関する相談会は開局薬剤師との共同事業であり、病院薬剤師の社会活動の1つとして今後も全国展開を図っていく予定ですので、地方における活動を活発にさせていただくと同時に、これを集計して会員に紹介したいと考えています。

2. 日病薬ホームページの充実

ホームページのもつ目的は情報の共有と迅速な提供でありますので、適度な更新に心がけ、さらに充実していく予定です。

具体的には、各種行事の案内情報、リンクの充実と「BS病薬アワー」のストリーミングによる聴視等を検討し、会員が積極的にアクセスしたくなる内容としていきます。

ホームページトップに「私たちの職場」掲載！

今年度からの目玉として、病院薬剤師の活躍を一般に広く知っていただくため、ホームページのトップに会員施設の職場や業務内容紹介の写真を公募し掲載することにいたしました。すでに応募・掲載が始まっており、今後多くの会員からの応募をお待ちしております。

また、現在のホームページは基本的には開設当初の構成のままであるため、リニューアルの必要性が感じられます。広報部での検討に参考となるご意見を広報部宛お寄せ下さい。

3. 日病薬紹介英文パンフレットの作成

これまでも日病薬を紹介する英文パンフレットがありましたが、平成18年度に横浜でFAPAが開催されることから、これに合わせパンフレットの全面改訂作業を実施中です。完成後は、海外諸団体との交流などの際にご利用いただければ幸いに存じます。

以上、広報部のあゆみと今後の方針を概説させていただきました。日病薬の運営は会員各位のボランティア的活動により支えられています。より積極的なご意見を様々な場面で活かしていけるよう努力してまいりますので、宜しくご協力のほどお願い申し上げます。